

いただいて実行委員会を作り準備を致しました。学会開催にご協力いただいた全ての方々に感謝の気持ちを表したいと思えます。

『病院・病床機能の分化と地域医療連携』というテーマにどれだけ迫ることができたか不安もありますが、残された時間は多くはありません。今回を契機にそれぞれの地域で検討が進むことを願いながら、開催のご報告と致します。

第11回鳥取支部学術集会

学術集会会長：医療法人十字会野島病院
理事長・総院長 野島丈夫



会場風景

鳥取支部では2014年9月27日(土)、倉吉未来中心(倉吉市)にて「医療の質、組織の質、経営の質の向上を図るマネジメントの実践」をテーマに「第

11回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会」を開催しました。県内各地から約300名の参加があり、特別講演、ランチョンセミナー、シンポジウム、パネルディスカッション、一般演題(口演)33題、一般演題(ポスター)26題について発表や活発な討論が行われました。特別講演は鳥取大学医学部附属病院 北野博也院長の「鳥大病院が目指すもの」、ランチョンセミナーでは鳥取大学医学部 武中 篤教授の「手術ロボットで外科治療はここまで変わった」の講演を頂きました。シンポジウムでは、「地域包括ケアシステムの中で病院の果たすべき役割」と題し、鳥取大学医学部 谷口晋一教授の基調講演に続き、鳥取県内2病院の取り組みと問題点の発表があり、地域包括ケアシステムの構築に向けた議論がなされました。また、パネルディスカッションでは「リハビリテーション療法における医師・看護師・セラピスト・管理栄養士間のあるべき連携」と題し、4人のパネラーに現状での問題点や改善への取り組みなど本音で討論していただき、盛況のうちに閉会いたしました。

第13回島根支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構浜田医療センター院長 石黒眞吾

2014年9月27日(土)、第13回島根支部学術集会を浜田市石中央文化ホールにおいて開催し、406名の参加を得ました。テーマは「医療の効率化をめざしてー機能分化



会場風景

と医療連携」とし、特別講演として恵寿総合病院理事長の神野正博先生に「病床機能分化と地域医療の方向性」と題してご講演いただきました。患者を

病院から地域に如何に展開するのか、そして経営とどう結び付けて行くのか、大変参考となりました。ランチョンセミナーでは東京医療保健大学の瀬戸僚馬先生に「新しい病院職種と役割分担」と題して、医師事務作業補助者を中心に病院内の職種間の役割分担と連携についてお話いただきました。シンポジウムでは「チーム医療を生かす」と題して、県内6施設より発表いただき、院内におけるチーム間の連携の在り方を模索していただきました。ポスター発表は35題で、各病院での取り組みや実情を知ることができました。開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

第5回岩手県支部学術集会

学術集会会長：岩手県立磐井病院院長 加藤博孝



会場風景

2014年9月28日(日)、岩手県医師会館を会場に、メインテーマを「チーム医療と専門職連携(IPW)」とし、県内各地から221名の参加をいただき、

第5回岩手県支部学術集会を開催しました。

特別講演は東京弁護士会井上法律事務所弁護士井上清成先生に「病院法務部の設置と医療事故調査委員会の動向」と題して国会で審議された医療事故調査委員会のあるべき姿や各病院で問題となっている未収金の問題についてわかりやすくご講演いただきました。パネルディスカッションはテーマを「チーム医療と専門職連携・専門職連携教育」として、看護、薬剤等各職種から6名の先生方に各施設での取り組みを講演していただき、会場の皆さんとディスカッションを行いました。ランチョンセミナーでは岩手県立中央病院がん化学療